

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社)日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第2号 (2017年3月15日発行)

今号の内容

- オリエンテーリング日本導入 50周年記念シンポジウムとパーティー、盛況裏に終了
 - 全日本大会改革について (常設全日本大会実行委員会委員長 木村佳司)
 - 今季のスキーオリエンテーリングについて (業務執行理事 木村佳司)
 - 財政構造の改革について(訂正と追加) (業務執行理事 平島俊次)
 - 国際委員会の設置 (業務執行理事 平島俊次)
 - 関西ワールドマスターズゲームズ(WMG)準備委員会を設置します (業務執行理事 平島俊次)
 - 女性委員会の活動について (女性委員会委員長 高野由紀)
 - 普及・教育・スキルアップの現場から (副会長 村越真)
1. 講習会・研修会報告
 2. 来年度のディレクター講習
 3. 指導運営資料の紹介

●オリエンテーリング日本導入 50周年記念シンポジウムとパーティー、盛況裏に終了



(シンポジウムではスキー0代表選手でもあったアドベンチャーレーサー田中陽希さんが記念講演を、またパーティーではスポーツ庁健康課長井上仁様よりご祝辞をいただきました)。

1966年に、東京都の高尾山で日本で初めてのオリエンテーリング(当時の名称は徒歩ラリー)が実施されてから本年度で50周年。これまでの半世紀を見つめ、これからの半世紀を考える50周年記念シンポジウムとパーティーが、3月5日東京市ヶ谷の私学会館で開催されました。

前半シンポジウムではアドベンチャーレーサーであり、最近ではNHKのグレートトラバース100名山一筆書きなどで活躍される田中陽希氏に記念講演とJOA副会長村越真との対談、その後、オリエンテーリング界の各年代で活躍される高橋厚氏、宮川祐子氏、国沢五月氏、田島利佳氏、西

村徳真氏、濱宇津佑亮氏によるパネルディスカッションが行われました。田中氏は2009年にはスキーマ0の日本代表としてルスツでの世界選手権でも戦ったオリエンティアでもあり、オリエンテering界への期待と世界で戦う選手へのメッセージを語ってもらいました。

パネルディスカッションでは、改めてオリエンテeringが魅力に溢れるスポーツであること、その一方で、他のスポーツにない魅力を伝えていく上で工夫が必要なことなどが論点となりました。

パーティーではオリエンテering黎明期に活躍された方を含めて多くの80名近い参加をいただきました。当日会場で映写したスライドは貴重な資料として公開する予定です。また、今回収集した資料も含めて、今後50周年の記録を記念誌として編集する作業を進める予定です。改めてメール等で資料の収集についてのご協力依頼を致します。

●全日本大会改革について (常設全日本大会実行委員会委員長 木村佳司)

2016年3月に42回を終えた全日本オリエンテering大会ですが、現在のシステムのままでは中止に追い込まれることも考えられます。全日本大会が今後も開催され、50回目を迎えられるようにするためには、継続できる大会システムに変えて行く必要があります。ではオリエンテeringの全日本大会って何なのでしょう。2015年の全日本大会を考えるワーキンググループでは、以下のように定義しました。

【全日本大会の定義】 生涯スポーツとしてのオリエンテeringの祭典として、全ての年齢層の競技者の目標となる競技会を目指す。これを実現するための基本方針を立てました。

【基本方針】

- (1) 毎年開催する。
- (2) 生涯スポーツとして男女別年齢別選手権競技を提供する。
- (3) ロングディスタンス競技の日本選手権大会とする。
- (4) JOAが主催し主管する。

これを実現していくためには、イベント規模をある程度大きくしていく必要があります。そのために競技者の約半数を占める学生競技者を取り込んでいく努力を行っています。これに伴って、全日本大会の選手権クラスの出場資格と、インカレ大会の選手権クラスの出場資格の相互融通を行う動きもあります。当面はこの方向で全日本大会を企画していきます。多くのかたに注目いただき、全日本大会に参加いただければありがたいです。

●今季のスキーオリエンテeringについて (業務執行理事 木村佳司)

オリエンテeringを五輪種目に！

オリエンテeringの4種目(フット、スキー、MTB、トレイル)のうち最もオリンピックに近いのがスキーオリエンテeringです。IOFはスキーオリエンテeringを冬季オリンピック種目入りさせるための活動をしています。この活動にあたって日本が大きな役割を果たしているのです。もともとヨーロッパのスポーツだったスキーオリエンテeringが世界的な広がりを見せている数少ない国が日本です。スキーマ0の世界選手権を開催した実績があるヨーロッパ外の国は旧ソ連のカザフスタンを除くと日本だけなのです。

マルチスポーツイベントでは、近年ぞくぞくスキーオリエンテeringの採用が進んでいます。2011年の冬季アジア大会には正式種目として採用されました。CISM(世界軍人大会)でも

スキーオリエンテーリングは人気種目となっています。そして2019年には冬季ユニバーシアード（総合大会）の正式種目になります。もはやスキーオリエンテーリングが採用されていないのはオリンピックだけ！というところまで来ました。

当面の目標はJOCが派遣する日本選手団の中にスキーオリエンテーリング選手を入れてもらう事です。そのためにはメダルが狙える程度の実力を持たなくてはなりません。2019年の冬季ユニバーの開催地で開催されている世界選手権に、学生3名を含めた日本選手が挑戦しています。

2017年世界スキーオリエンテーリング選手権大会（3月5-13日、ロシア・クラスノヤルスク）
日本代表選手（所属、出身県、出場回数）

男子：

石原湧樹（東京大学、北海道、1回目）

石原拓巳（岩手大学、北海道、1回目）

岸祥太郎（北海道大学、北海道、1回目）

女子：

酒井佳子（Team Ski-0、北海道、8回目）

オリエンテーリングを五輪種目に！その切り込み隊がスキーオリエンテーリングです。

●財政構造の改革について（訂正と追加）（業務執行理事 平島俊次）

前回の理事会・事務局だよりの内容に一部誤りがありましたので訂正いたします。競技者登録者数の変動について減少はなかったと報告いたしましたが、再度確認いたしました結果、以下の通りです。懸念していたほどではないものの、一般の登録者数が減少していました。一方、青森県、埼玉県、東京都での高校生登録が大幅に増加しています。

	競技者登録者数(人)				
	総数	一般	学生	高校生	小中学
2016年	2,154	619	1,290	148	97
2015年	2,085	668	1,244	74	99
増減	+69	-49	+46	+74	-2

③指導者年間登録費からの組織育成費の支給廃止について

次年度も組織育成費を廃止せず支給を継続することになりました。また、それに伴い組織育成費支給廃止の際に実施予定でありました、新規指導者登録での初年度登録費の全額支給もありません。

●国際委員会を設置します（平島俊次）

国際委員会は、海外の組織 IOF や主にアジア各国の組織との連携を深め活性化に協力し日本の国際的な地位向上を目指します。まずは、関西 WMG でのワールドマスターズオリエンテーリング選手権（WMOC）開催に向けての IOF への働きかけ、それに Sport For Tomorrow(SFT)のコンソーシアムへの加盟の準備を行います。

●関西ワールドマスターズゲームズ(WMG)準備委員会を設置します (平島俊次)

関西ワールドマスターズ準備委員会は、4年後にせまった関西ワールドマスターズ 2021 でのオリエンテーリング開催に向けての準備を行います。

両委員会では、委員の募集も行いますので、委員会での活動に関心のある方、活動を希望される方は JOA 事務局にご連絡ください。

●女性委員会の活動について (女性委員会委員長 高野由紀)

今、公認大会・女性の参加者数は殆どのクラスが一桁です。今年度の“全日本”リレー大会では、WS：2チーム、WV：1チームのみの参加という寂しい状況でした。スポーツのやり甲斐と楽しさは、「人」と深い関係。もっと女性のオリエンティアが多ければ、もっと楽しいのに、と思いませんか。

昨年の秋、JOA組織に「女性委員会」が加わりました。真っ先に取り組んでいきたいテーマは、「女性の仲間を増やす」ことです。上達する為にも、より楽しむ為にも、仲間が多いことが最も素晴らしい環境だと思っています。

- ・女性が感じるオリエンテーリングの魅力や楽しさを、多くの人に伝えられるように。
- ・厚い選手層から優れた選手が自然に育つ土壌となるように。
- ・卒業・結婚・出産・育児・介護…様々に変わる環境の中で、女性が楽しく競技を続けられるように。

女性の元気を生み出す活動の母体を目指して、できることから、少しずつでも、企画や支援を実践していきます。特に女性の方からのご提案やアイデア、ご協力を心から期待しています。

●普及・教育・スキルアップの現場から (副会長 村越真)

1. 講習会・研修会

JOA では競技者や指導者のスキルアップに資する講習会・研修会等を逐次開催しています。この冬には、以下の③つの研修会を開催しました。①については、前号の DIRECTION でお知らせしましたので、②③について簡単に紹介します。

①安全管理とコースプラン講習 (12月23日実施)

②ナビゲーション・インストラクター研修会 (1月8-9日)

今、山岳の分野では道迷い遭難が40%を占め、大きな問題となっています。登山者のための読図講習に活躍するオリエンテーリング関係者も少なくありません。JOA では、こうした現状やイギリスの先進事例を踏まえ、ナビゲーションスキルのアウトリーチ活動として、地図読み・ナビゲーションを一般の登山者・アウトドア活動者に提供できる指導者(ナビゲーション・インストラクター(仮称))の準備を進めています。制度設計と技量向上のための研修会を埼玉県飯能市で実施しました。

③マスターズ等対策シニア合宿 (1月14-15日)

海外のトレインは難しい。でも、そのためのスキルアップの機会がない。そう感じている方は少なくないのではないのでしょうか。もちろん日本と海外のトレインは性質が違いますが、やり方によっては海外での好成績につながる練習を日本で行うことも可能です。スウェーデンへの留学

経験も持つ強化選手尾崎弘和選手を主任コーチに、表題の合宿を実施しました。同趣旨の合宿は4月1～2日にも実施予定です。詳しくはJOAのウェブをご覧ください。

(http://www.orienteering.or.jp/archives/2017/0228_2joa.php)

2. 来年度のディレクター講習：新たな視点でオリエンテーリングに関わってみませんか？

JOAでは組織や大会の運営を担える指導的人材養成としてディレクター1級、ディレクター2級の養成を行ってきました。2017年度は10月7（土）～8日（日）の二日間で、その講習会を実施します（実施場所は東海地区の予定）。「資格を取るメリットはあるの？」という声を時々耳にしますが、平成14年にディレクター講習会のプログラムを改定して以来、多くの受講者の方から、これまで知らなかった知識を身につけることができた、新たな視点で自分のオリエンテーリングを見直すことができたといった肯定的な評価をいただいています。内容は級によって異なりますが、コースプランや安全管理、クラブの活性化や指導のためのプランづくりなど、地域クラブや大会の運営はもちろん、自分のスキルを見直すことにもつながります。詳しい要項は4月に講評します。

3. 指導運営資料の紹介

①ナビゲーションスポーツのための安全ガイド

オリエンテーリングは、多くのオリエンティアが思っているよりもリスクの高いスポーツです。人が見ていない状況で身体的にも高い負荷がかかっています。スポーツにリスクはつきもので、その克服の努力が達成感をもたらしますが、予期せぬリスクは不幸と社会的非難をもたらすリスクがあります。オリエンテーリングにあるリスクを知ると同時に、それに対して競技者として、あるいは運営者としてどう考えればよいかを個別事例への具体的対応から指針に至るまで網羅的にまとめたのが「安全ガイド」です。大会運営の際の参考に、あるいはクラブでの勉強会にご活用ください。

URL:

②指導教本

皆さんは、オリエンテーリングにどのようなスキルが必要とされ、それをどのようにステップアップしていくのが効率的か、考えてみたことはありますか。スポーツの発展は競技力に支えられていますが、それはスキルに対する深い理解から生まれます。長年トップ選手のコーチングを行ってきた吉田勉さん、外部に対しても講習経験を豊富にもった小泉さんによって作成された指導教本ですが、このほど初級～中級レベルの教本が改訂されました。ご自身のスキルアップに、効果的指導にお役立てください。

(①②とも <http://www.orienteering.or.jp/leader/text.php>)